

総務産業常任委員会 所管事務調査



■ 町村が出資している
振興公社等
紋別郡西興部村

10月2日から4日までの3日間、総務産業常任委員会の所管事務調査で「町村が出資している振興公社」と「空き家対策」について、道内4町村を視察しましたので、その様子を報告します。

西興部村は四方山に囲まれた農林業を中心とした村で、人口は現在1千人程となっている。農林業関係の衰退により、人口減少に歯止めがかからない状況である。

観光面では、ホテル「森夢」(リム)を建設し、観光客の受入れ施設として整備した。「森夢」、「木夢」(コム)、「花夢」(カム)、「IT夢」(アトム)など夢を託すように、建物の名称に夢の一字を入れアピールしている。

西興部村も高齢化が進み、若い人たちの定住促進が課題であり、高齢対策と同時に重要な課題である。

① ホテル森夢
○ 建設の目的・経過
人口減少と少子高齢化の状況で、観光やレクリエーション客が増加する中、宿泊・飲食などの受

け入れ態勢が未整備であることから、「中山間地域農村活性化総合整備事業」を活用した交流センター建設構想が計画され、都市との交流を目的に農村の文化・レクリエーション交流、保養地としての拠点施設として建設計画が具体化された。過疎化に歯止めをかける象徴としての村民の期待も大きかった。

総事業費は公民館・活性化センター・宿泊施設(ホテル森夢)3施設同一で約20億円の総工費で、1年7カ月の工期で完成した。平成7年3月にオープンし、ホテルの経営や公民館・活性化センターの管理運営は、村が全額出資した第三セクターが指定管理制度によって行っている。

また、周辺自治体の類似施設整備や不況等の影響で、宿泊客は減少傾向である。

○ 出資状況・運営体制
平成28年度運営補助金

は1千900万円、前年度より400万円増額、累積損失94万8千円、ゆったりかんと同じ光明石温泉である。

運営補助については、1千万円から2千万円で赤字補填ではなく、公社への出資金として増額している。

設置後、10年間は黒字経営が続いたが、宿泊者には公共事業工事関係者が多く宿泊していたため、公共事業等の減少で厳しい経営環境になった。

地域住民の施設利用が大きいため、補助の増額等については影響が小さい。

ホテルの経営について、外部からの指定管理者を検討したが、廻りで受けてくれるところがなく、村が100%出資の第三セクターで運営をスタートさせた。

厳しい経営環境にあるが、村の活性化にとって重要な施設である。公社の資本金は当初は1千万円で、現在は2千万円になっている。

株主は村で100%出資している。
従業員については、社員が5〜6名で残りが30名程度のパートと外部からの契約社員であり、各セクションの従業員の職種を採すのも大変で、人の確保が課題であり、地域協力隊を入れてバックアップしていた。

事業概要はホテル宿泊部門、レストラン部門、スナック部門、道の駅等を管理運営している。

○ 村として
三セクへの補助金の増額等については、この施設が村民にとって必要な施設であると判断し、村としても補助金を支出している。

身障者と70歳以上のお年寄りに月2回の無料入浴券を配布している。さらに、村民には元気回復入浴事業として入浴料の半額を助成している。

利用促進を図るため電動自転車を活用し、村内を巡ってもらう取り組み

や、クラブツーリズムや宿泊プランなどにより交通費のキャッシュバック等の取り組みを行っている。

○ 建設の目的・経過
地元の木材会社の倒産後、従業員の雇用対策と製材工場の再建を図り、地域の産業振興として老朽設備の更新費用として村も2千万円の助成を行い、雇用の確保を最優先に事業継続の支援をしたが、継続操業することは経営を悪化させるとの結論となり、楽器材を主とした楽器材高次加工施設の建設計画が進められた。

平成2年に西興部村と興部地区林産協同組合を中心に出資金1千100万円の第三セクター「株式会社」を設立し、村有地に「山村振興農林漁業対策事業」を活用して、エレキギター原板作成のための加工棟と塗装・研磨のための塗装棟の建設を行

る。

5